

歴史は未来の羅針盤



日野町史『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」を平成一七年二月に刊行しました。第五巻「文化財編」は平成一八年度末に刊行予定です。このコーナーでは、町史の内容や調査報告などを紹介していきます。皆さんに町史に親しんでいただき、実際に手に取ってご覧いただきたいと思ひます。

『近江日野の歴史』

「文化財編」二月刊行

『近江日野の歴史』全九巻の第二回配本として、第五巻（分野編）「文化財編」を平成一九年二月に刊行する予定です。今回は、その主な内容についてお知らせします。

日野町は豊かな自然に恵まれ、先人たちが刻み育んだ歴史と文化の宝庫です。これは決して過言ではなく、「文化財編」を見れば納得できます。「文化財編」は四つの章からなり、それぞれ当町の文化財を代表するものばかりです。

第一章「美の香り」は、絵画、典籍・古文書で、いわゆる書画に分類されるものです。絵画では、当町の歴史上重要な仏画・絵図・肖像画などを取り上げます。また、当町出身の画人（高田敬輔・月岡雪鼎・谷田輔長など）や、当町と縁ある画人（小泉斐・塩川文麟・富岡鉄斎など）の作品を紹介しま

す。典籍・古文書では、町内の社寺に残されている中世以前の経典や古文書が中心となります。

第二章「匠の文化」は、彫刻、石造品、工芸品、曳山の四節からなり、工芸職人たちの優れた技術の数々をご覧いただけます。特に、蔵王石工による石造品、かつての基幹産業であった日野鉄砲・日野腕、日野商人の財力と文化水準を示す曳山は、日野町を象徴する文化財といえるでしょう。

第三章「住の演出」では、建築と町並みを取り上げます。建築は、寺院や神社の宗教建築だけでなく、農家・武家屋敷・日野商人本宅などの民家建築もあり、多彩です。また、町並みでは、城下町を祖形とする日野市街地の景観的特徴を明らかにし、全国唯一の事例である棧敷窓をクローズアッ

プします。

第四章「地に根ざす」では、天然記念物、考古、祭礼、街道・道標、地域文化財として、日野町限定の文化財を紹介します。五件も

の国指定天然記念物は、当町を自然の宝庫と呼ぶゆえんです。考古では、これまでに発掘調査が実施された主要な遺跡を紹介します。祭礼では、伝統的な民俗行事が豊富な当町を代表する祭りを取り上げ



▲高田敬輔筆「雲龍図」



日野鉄砲▶

ます。街道・道標では、当町が古くから交通の要衝であることを浮彫りにします。地域文化財では、その重要性に気づかれず歴史に埋もれているような、身近な文化財にスポットを当てます。

一般的な自治体史で取り上げられる文化財は、指定文化財を中心とした個別解説だけの形式が多いですが、『近江日野の歴史』では指定・未指定に関わらず、日野町の歴史と文化にとって重要なものを取り上げます。そして、各分野における特徴や歴史的意義を踏まえた上で、主要なものについて個別解説を行います。皆さんの身近にある文化財も数多く取り上げておりますので、ぜひご一読ください。

「文化財編」の価格は一冊四千円（消費税込み）です。ただし、期限内にご予約いただきますと、割引価格三千八百円となります。また、最終巻が無料となる全巻セット購入の受付もしております。詳しくは、間もなく配布しますリーフレットをご覧ください。日野町の文化財を網羅したこの一冊をぜひお買い求めください。また、第一巻「自然・古代編」も好評販売中です。